

兵庫・六条遺跡

ろくじょう

一九九九年調査区は、神戸市との市境に接した地点で、土石流によつて安定した面に集落を営んでいた。北側には掘立柱建物跡が数棟ある。一二世紀後半の大型の落ち込み(SXO-1)から木器・土師器・須恵器・瓦器などとともに木簡が一点出土した。

- 所在地 兵庫県芦屋市清水町
- 調査期間 一 一九九九年(平11) 一一月～一二月
二 二〇〇〇年四月～六月

3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

4 調査担当者 渡辺 昇・川村慎也

- 5 遺跡の種類 集落跡

- 6 遺跡の年代 弥生時代～近世

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

六条遺跡は六甲山南麓の段丘面から扇状地に位置する遺跡で、芦屋川西岸にあたる。区画整

建物の北西隅部にあたる可能性が高い柱穴の掘形内から三点の蘇民将来札が出土した。他に瓦器・土師器の破片が出土している。池内にも多くの土師器・須恵器・瓦器が投棄されていた。京都系の土師器皿が多数含まれている点は注目される。

板岩などを選んで使用している。導水部分も確認している。

二片が接続し、側部の一部を欠損する。頭部は平たくしており、下部は鋭く尖らせる。

- 8 木簡の釈文・内容

一 一九九九年調査区

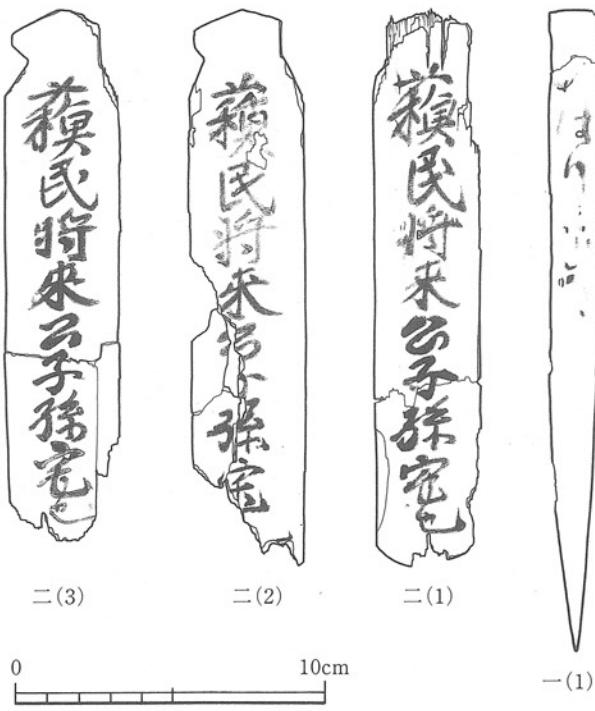
(1) 「□はり□□」

210×18×4 051



(大阪西北部)

六条遺跡は六甲山南麓の段丘面から扇状地に位置する遺跡で、芦屋川西岸にあたる。区画整理事業に即して、一九九九年から順次調査を実施している。弥生時代前期から近世にかけての複合遺跡であるが、平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺構が中心である。そのうちの二地点で木簡が出土した。



- 一一 11000年調査区
- （1） く蘿民将来公子孫宅也
 「く蘿民将来公子孫宅也」
 「く蘿民将来公子孫宅也」
 「く蘿民将来公子孫宅也」
- （181）×34×4 039
 （180）×39×4 039
 （175）×36×4 039

（1）は上下部ともに欠損しているが、ほぼ完存に近い状態と思われる。頭部は両側から切り込みを入れている。
 （2）は上部の状態は良好だが、下部は欠失している。墨は明瞭である。
 （3）は頭部の切り込みが深い。下部わずかに欠損している。

9 関係文献
 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『平成二二年度年報』
 （11000年）
 同 『平成二二年度年報』（11001年）
 （渡辺 昇）